	公表	事業所における自己評価結果

事業所名	放課後等デイサービス　MIRAI	公表日	令和　8年　3月　3日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3		・活動室のほか和室も使用し、活動内容を分けることができている。 ・クールダウンスペースも確保されているから。 ・充分なスペースが確保できていると思います。	定員を超過することのないよう受け入れています。3つの部屋を使い分けし、十分なスペースが確保されています。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3		・職員配置は適正に保たれており、特性やマッチングなど職員皆で検討した上で受け入れている。 ・受け入れる際に十分に話し合いをしたうえで受け入れ、無理のない体制にしている。	基準の人員を配置し、安全を第一に考えて支援を行っております。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3		・基本的には出ているものをなくし、視覚支援を行ったり落ち着いて過ごせる環境作りを心がけている。 ・視覚支援を行い特性に応じて個別対応を行っている。 ・事業所の作りを利用し、活動によってスペースを分けている。クールダウンの際にも室内を有効活用し刺激を減らすような環境にしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3		・物を減らすことで、常に清潔に保つことができている。 ・毎日清掃、整頓を行っている。過ごしやすい環境だと思う。 ・子どもたち一人ひとりの特性に合わせた環境づくりに取り組んでいます。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3		・キッチンなどの危険な場所への入室は職員が近距離での見守りを行いながら、どこの部屋にも自由に出入りすることができる。 ・クールダウンスペースが確保されていることにより、落ち着いて活動に参加が出来ていると思う。 ・過ごす内容によって自ら過ごす場所を選択されます。過ごす環境を選択することによってより安心して事業所にて過ごされていると思います。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3		・常勤3人が常に打ち合わせができる環境のため、毎回のサイクルで得た気づきを活かして修正・改善を行っている。 ・日々、ケース会議を行い子どもたちの様子を共有し支援の統一している。 ・スタッフ全員で振り返り、支援の統一を行っています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		3	・事業所開所から、今回初めての評価となる。集計が出たらそのような機会を設けたい。 ・評価は今回が初めてとなる。ぜひ参考にして、今後に活かしたい。	今回が初めての評価となります。頂いたご意見を踏まえ、今後の支援に活かしてまいります。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		・毎日のMTで様々な意見をいただいており、常に業務改善を意識している。 ・ケース会議の中で全員が意見を出し合い、認め、改善に繋げられているから。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		3	・事業所開所から1年未満、来年度検討中。 ・事業所が開所したばかり、検討していく。	第三者から評価されることにより、新たな課題が見えてくると思います。外部評価実施に向けた情報収集および実施方法の検討をしていきます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3		・外部研修へも積極的に参加できる環境であるが、まだ少ない。職員のスキルアップのためにも参加していきたい。 ・研修受講を積極的に出来る環境ではあるが、日程によっては難しい。	
適切	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3		・HPにアップされている。 ・毎月の活動予定表の裏面にも掲載されてある。	ホームページ掲載内容の定期的な見直し・更新を行っていきます。支援内容の変更時には速やかに反映する体制を整えていきます。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	3		・アセスメントにより保護者のニーズをしっかりと伺った上で、お子さまを見立てた計画書を作成している。 ・一人ひとりに合わせた計画となるよう個別の目標設定をスタッフで話し合い作成している。 ・子どもたち一人ひとりに合った計画書が作れるよう、スタッフ間で意見交換をしています。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3		・児童発達支援管理責任者だけではなく、保育士など現場により近い職員達からの意見はとても重要。職員皆の声を大切にしている。 ・現場の声を聞き、計画に反映されていると思う。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	3		・職員皆が個別支援計画書を確認し、支援に反映されている。 ・計画書を把握し、支援に反映されている。 ・計画に沿った支援を行っています。子どもたちの変化・成長も職員全体で共有し、計画に沿った支援を事業所全体で取り組んでいます。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3		・日々の行動観察や支援記録によるアセスメントを行うとともに、関係機関から提供される発達検査等の情報も参考にしながら、子どもの適応行動の状況を総合的に確認している。 ・行動を観察し支援記録を作成することにより個々の強みや課題を確認できている。 ・行動の前後の様子、周りの環境・状況の様子も含め子どもたちの特性を理解できるように努めています。	独自のアセスメント票を使用し、児童の行動についての理解を深めてまいります。特性理解をより進めていくためにも、必要な時にはアセスメント票の見直しも検討していきます。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されてい	3		・ガイドラインに基づき、課題やニーズに応じた項目を設定している。 ・ガイドラインを参考にし、必要な支援内容が策定されていると思う。	本人支援同様、家族支援も重要と考えて作成しています。必要に応じて、お子さまのライフステージに合わせた移行支援及び地域支援、地域連携を行っていきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3		・子どもの発達状況や個別支援計画を踏まえ、職員間で意見交換を行いながら、役割分担の上、チームで活動プログラムを立案している。 ・子どもたちの様子を振り返り、次月の活動の立案の参考にしている。	

切な支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3		・現場リーダーが中心となり、子どもの興味・関心や発達状況に応じて活動内容を見直し、同一内容に偏らないよう工夫しながら活動プログラムを作成している。 ・子どもたちの特性や課題を踏まえて、活動内容を考えるようにしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	3		・活動参加の様子を確認しながら、必要に応じて活動内容や関わり方を調整し、適切な支援を行っている。 ・個々の様子を共有し、内容を変更したり調整している。	個別活動と集団活動の目的を明確にしたうえで個別支援計画に反映し、活動後の振り返りを通して適切性を検証しながら、継続的に支援内容の見直しを行っていきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3		・支援開始前に職員間で申し送りや打合せを行い、その日の支援内容や子どもの注意点や当日の体調、役割分担を確認している。 ・情報を共有した上で、チームで連携しながら支援を実施している。 ・毎朝の朝礼で情報共有を行うことで、滞りなく進められている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	3		・支援終了後に職員間で振り返りの時間を設け、子どもの反応や支援の工夫点、課題等について共有している。共有した内容は、支援記録や次回以降の支援方法に反映するようにしている。 ・必ずその日の様子を振り返り、次回の支援でどう改善するか話し合いをしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3		・日々の支援内容や子どもの反応について記録を残し、職員間で共有している。支援の振り返りや支援方法の見直しに役立てている。 ・支援終了後に必ず支援記録をとっている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3		・定期的なモニタリングを通して、子どもの成長や支援状況を確認している。モニタリング結果を基に、支援内容や目標の見直しを行い、より適切な支援につなげている。 ・モニタリングを行うことで支援の見直しに繋げられている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	3		・日々の活動や支援の中で複数の活動を組み合わせている。子どもの状況に応じて活動の内容や方法を調整し、バランスの取れた支援を行っている。 ・偏りのないよう活動に組み込んでいる。	4つの基本活動が計画的に位置づけられているかを定期的に確認し、個別支援計画との関連を明確にするとともに、活動実施後の振り返りを通して支援の質の向上を図っていきます。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	3		・子どもの特性や発達段階に応じて、選択肢を提示するなどの工夫を行い、子どもが自分で選ぶ経験を積めるよう支援している。日々の支援を通して、自己決定する力の育成につなげている。 ・活動以外の時間(余暇時間)も自己選択の機会を設け、個々の力を伸ばせるようにしている。 ・取り組むタイミング、取り組むもの、場所、取り組みをやめるタイミング、子どもたち自身で選択できるような関わり、環境づくりを行っています。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3		・児童発達支援管理責任者が中心となり参加している。会議で得られた情報は事業所内で共有し、支援に反映している。 ・児発管が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3		・保護者の同意のもと、関係機関と連携を図り、子どもの状況や支援内容について情報共有を行っている。　・必要に応じて関係機関と協力しながら支援を行う体制を整えている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3		・学校によっては、必要な情報について共有し送迎や利用調整に活かしている。送迎が遅延するなどのトラブル発生時には速やかに学校と連絡を取り合い、連携して対応している。 ・保護者を通して情報共有をしたり、お迎え時や電話で確認を取っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3		・必要に応じて、就学前に関わりのあった関係機関と連絡を取り、子どもの発達状況や支援上の配慮する事について情報共有を行っている。 ・共有した情報は支援に活かしている。 ・必要に応じて行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		3	・現在のところ、学校卒業に伴う対象児童がいない。今後、移行が必要となる場合には、関係機関と連携しながら必要な情報提供を行いたい。 ・まだ学校を卒業した児童がいないが、今後は情報提供を行う予定。	移行支援の流れや手順をあらかじめ整理し、情報提供様式（支援経過・アセスメント・個別支援計画の要点等）の整備を行っていきます。また、学校や相談支援専門員、受入先事業所との連携体制の構築を図ります。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	3		・現時点では、助言や研修を受ける機会はないが、今後、支援上の課題や必要性に応じて連携を図り、助言や研修を受けられる体制を進めていきたい。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3		・放課後児童クラブや児童館との直接的な交流の機会はないが、地域の公園等を利用した活動を通して、地域の他の子どもと一緒に遊ぶ機会がある。 ・公園や戸外活動で地域の児童と一緒に遊ぶ機会はある	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		3	・協議会の開催時間（支援時間）の関係で参加は行っていない。今後、地域の動向や必要性を踏まえ、参加について検討していく。 ・日程(開催時間)が合わず、参加ができていないが、機会があれば参加したい。	協議会の開催日程を事前に把握し、可能な範囲で参加できる体制を検討します。参加が難しい場合は、議事録の共有や資料提供を受けるなど情報収集に努めます。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	3		・日頃から連絡帳や面談、送迎時のやり取りを通して、子どもの状況や支援の様子を保護者と共有している。子どもの成長や課題について保護者と認識をすり合わせ、共通理解のもとで支援を進めている。 ・連絡帳や送迎の時間でその日の様子や家庭での様子を情報交換している。相談があった場合には、スタッフ間でも共有し、助言を行っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		3	・現時点では行っていないが、保護者の相談内容や支援ニーズを踏まえ、今後、情報提供や家族支援の充実について検討していく。	家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の情報収集や、外部研修や自治体主催研修の情報を保護者へ周知する仕組みづくりを検討します。要望があった際には事業所内で実施可能なミニ勉強会や交流会の企画を検討します。また、相談しやすい体制づくり（定期面談・随時相談の周知）を行っていきます。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3		・契約時に説明を行っている。保護者が内容を理解した上で利用できるよう、質問や確認にも適切に対応している。	

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3		・こどもや保護者との面談等を通して意向を丁寧に確認している。こどもの最善の利益を第一に考え、本人の気持ちや家族の考えを踏まえた支援内容となるよう計画に反映している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	3		・支援の目的や具体的な支援内容について説明している。質問や確認に対応した上で、保護者から書面にて同意を得ている。 ・支援内容について詳しく説明し、同意を得た上で署名していただいている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3		・日頃から保護者からの悩みや相談に応じることができるよう、信頼関係の構築に努めている。 引き続き、こどもの状況を踏まえた助言や支援を行いたい。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		3	・現時点では実施していない。 しかし、保護者同士の情報交換や相互理解の重要性を踏まえ、今後、事業所としてどのような形で支援できるか検討していく。	保護者ニーズの把握(アンケート・面談時の聞き取り)をし、小規模な保護者交流会や茶話会の試行的実施を検討します。行事開催時には保護者同士が交流できる時間の設定し、きょうだい児も参加できるイベントの企画も検討します。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3		・契約時の説明や重要事項説明書等を通じて説明している。 苦情や要望があった際には、事実確認を行い、職員間で共有した上で、速やかに対応している。 ・苦情があった際にはすぐに報告・共有・改善する体制を整えている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3		・SNS等の活用は行っていないが、毎月発行するおたよりを通じて、日々の活動の様子や行事予定をこどもや保護者に分かりやすく伝えている。 ・毎月のおたよりを通して日頃の様子や行事予定をお伝えしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3		・事業所内でルールを定め、職員に周知している。個人情報が記載された書類等は適切に管理し、外部への漏えい防止に努めている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3		・特性や理解度に応じて、声掛けの工夫や視覚的支援等を取り入れ、意思疎通や情報伝達が円滑に行えるよう配慮している。 また、保護者に対しても、分かりやすい説明を心掛け、必要に応じて書面等を用いて情報提供を行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		3	・現時点では、招待する等の取組みは行っていない。今後、地域とのつながりの重要性を踏まえ、検討していく。 ・地域住民を招待する行事は行っていない。ハロウィンの際に近隣の幼稚園と連携し、交流を行った。	地域住民が参加しやすい行事の企画検討(季節行事・作品展示等)、近隣幼稚園との交流を継続的な取組みに発展させます。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3		・各種マニュアルを策定し、職員に周知している。また、事故や感染症等の発生を想定した訓練を定期的に実施している。	
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3		・業務継続計画を策定している。非常災害の発生に備え、定期的に避難等の訓練を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	3		・アセスメントや面談等により、服薬の有無、予防接種の状況、てんかん発作等の健康面について事前に確認している。確認した内容は記録し、職員間で情報共有を行い、安全な支援につなげている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3		・現在、食物アレルギーのあるこどもの利用はないが、該当する場合には、医師の指示書を確認した上で、適切に対応する体制を整えていく。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3		・安全計画を策定し、事故防止や緊急時対応等の安全管理に必要な体制を整えている。 研修や訓練については、実施状況を踏まえながら、今後、計画的実施していく予定。	安全計画に基づき、年間の研修・訓練計画を策定し、実施後の振り返りやヒヤリハット事例の共有を通して継続的な見直しを行い、安全管理体制の充実を図っていきます。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	3		・安全計画は策定しているが、現時点では、家族等への周知は十分に行えていない。 今後、契約時の説明やおたより等を活用し、周知方法や内容について、より分かりやすい形となるよう検討していく。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3		・ヒヤリハット事例を記録し、職員間で共有するとともに、再発防止に向けた方策について定期的に検討している。 ・ヒヤリハット報告書を作成、共有を行い再発防止に向けて検討している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3		・虐待防止に関する規程等を整備し、職員に周知しており、定期的な社内研修も行っている。今後、外部研修等の活用も検討していく。 ・定期的に研修を行い、スタッフ間で共通認識を行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	3		・身体拘束は原則として行わない方針としている。やむを得ず実施が必要となる場合には、事前に保護者へ十分に説明し、同意を得た上で、計画書に反映することとしている。	身体拘束は原則行わない方針のもと、やむを得ず必要となる場合の判断基準や手続きを明文化し、事前説明・同意・記録・事後検証までを組織的に行う体制を整備するとともに、職員研修を通じて適正化の徹底を図っていきます。